

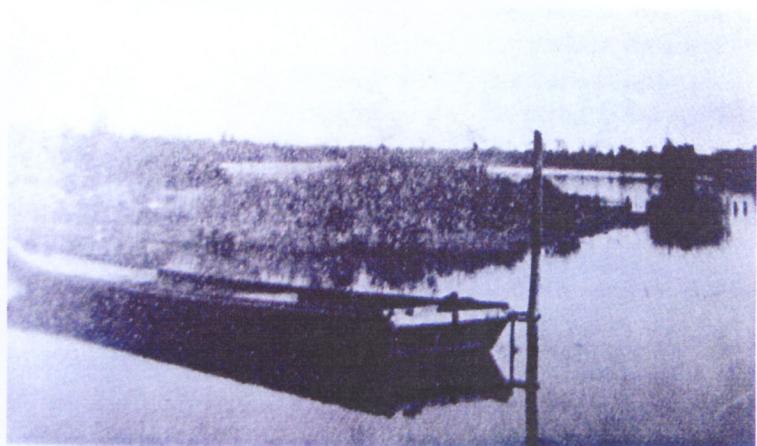
エコ・たまがわ

三多摩川エコミュージアム二ヶ領せせらぎ館情報紙

編集:印刷

特定非営利活動法人
多摩川エコミュージアム
〔代表理事・北島信夫〕連絡先:二ヶ領せせらぎ館
〒214-0021多摩区宿河原1-5-1No. 73 ☎/Fax 044-900-8386
<http://www.seseragikan.com>

矢口の渡しと小向の渡し 多摩川の渡し場跡碑⑨番外編2



【写真】上から、左は和田英作の「渡頭の夕暮れ」、右は小向の渡し（昭和11年）。下は、左が土手に踏み道を残す矢口の渡し跡への道。右が小向の渡し跡があったラジオ日本電波塔付近。

■14力所設置の跡碑

多摩川の渡し場跡碑も、14力所設置された。いずれも、市民（多摩川エコミュージアム）と行政（川崎市）の協働による成果だ。

4力所が残ったが、うち二つは、ありかを示す碑石があり、前回に紹介した。残り二つが、スーパー堤防工事中で、当分設置不能。それが次の渡し場跡だ。

□矢口の渡し跡・歌舞伎狂言「神靈矢口の渡し」で著名となった渡

しは、やや離れた新田神社の裏手。その後多摩川の流路が、南の方へ大きく変わった。

この渡しは、江戸時代に開かれたもので、対岸での農耕に通う作場渡し。古市場の渡しとも言われた。この和田英作の「渡頭の夕暮れ」は、野良仕事を終えた一家が、渡し舟を待っている情景だ。川崎の家族だろう。明治30年、東京美術学校の卒業制作という。10年ほど前、花嫁姿で渡し舟に乗って嫁入りしたという女性に出逢ったことがある。

□小向の渡し跡・この渡しも作場渡し。大正13年ごろ廃止されたので、手がかりがつかめない。文献では、徳川家康が江戸入府のとき、鶴見から小向に回って多摩川を越え、目黒に向かったとある。明治39年測図の地形図に表記。

■あし ①矢口の渡し跡⇒川崎駅前からバスで御幸公園前下車、徒歩5分。御幸公園裏の信号付近を下りた所。

②小向の渡し跡⇒川崎駅前からバスで妙光寺前下車、徒歩5分。土手へ出て、放送電波塔付近へ。〔写真と文・長島 保〕